



Biz Com

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>

2016年夏号 — 修了研究と向き合っ— 2016 VOL.52

CONTENTS

01 巻頭インタビュー 亀川雅人教授

02 新任教員の紹介

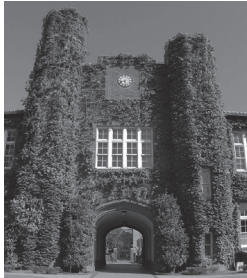
03 15期生入学式・JBCC2016

04 2015年度修了生 優秀論文紹介

06 院生活躍中! RBS News&Topics

07 研究会紹介・留学生日より

08 修了生インタビュー 13期生「Honor Student」
杉山章さん 衣田秀昭さん 阿部正樹さん



立教大学ビジネスデザイン研究科 委員長

亀川 雅人

Masato Kamekawa

「自身の問題意識と向き合っ
探究していくことで、
必ず得るものがある」



夏休みに向けて、いよいよ2年生は修了研究を本格化させる時期になりました。今回は、修了研究に取り組むにあたり、自身のテーマ決定や実証研究の実施において留意すべき点などを研究科委員長の亀川教授にお伺いしました。

— 修了研究のテーマを決定するにあたり、
どのようなことを意識したら良いですか？

学部を卒業すると同時に大学院に進学する人達は、学部時代に研究したテーマを深堀し、研究論文を書くことが主要な進学目的です。しかし、ビジネススクールは修了研究がメインではなく、各自のビジネスの社会的役割を認識し、社会に貢献するために幅広い経営関連分野の知識を得ることが目的になります。修了研究のテーマは、社会を俯瞰する知識を身に着けた上で、自らの専門領域を再認識するためのものです。そのためにテーマの決定は遅くなりがちですが、就業経験を持つ社会人学生の問題意識は社会的課題の解決に結び付く研究が多く、数多くの有益な研究がなされています。RBSでは、多様な分野の知識を得る「水平的な広がり」と、専門分野を深く掘り下げる「垂直的な広がり」の両方を目指します。1年次は幅広く学修し、2年次においてじっくりと自身のテーマに向き合い、探究していった欲しいと思います。

— 自身が興味を持ったテーマでも変更すべき場合がありますか？

客観的データの入手が難しいとわかれば、すぐにもテーマを変更すべきでしょう。また、先行研究で十分に論じ尽されている場合も同じです。そして、重要なことですが、あなたのテーマに誰も関心を示さない場合です。あなたの関心は、個人的な趣味の問題となり、社会貢献にはなりません。テーマの変更が必要でしょう。担当教授と良く相談してください。

— 最近の研究が統計に偏っているという意見もありますか？

データがあるから仮説を作ろうというのは、本末転倒です。データを

統計ソフトで解析して、出てきた結果を無理やり理論づけするような数字あそびに陥る場合があります。経済学や経営学は、数量化したデータを収集できるため、統計学的な分析がやすく、また、コンピュータの発達により統計学的な分析が大変容易にできるようになったことも要因です。算盤などで回帰分析をやるも10のデータでも時間がかかりますが、パソコンがあれば1,000のデータでも一瞬でできる時代になりました。もちろん、自らの問題意識に基づき仮説を設定し、その検証を統計的手法で実証するのは理に合っています。

— タイムマネジメントについて留意すべきことは何ですか？

2年次の春学期中に修了研究の骨格を固めておき、夏休みはアンケートの実施やその他のデータ収集に時間を割くのが良いでしょう。仮説を実証する段階で思ったような結果が出ないことがあります。その場合、テーマの設定からやり直すことも考えられるため、早めに準備をしてください。11月には研究をまとめて仮提出するのが望ましいです。研究活動は真剣に取り組むほどに広がりや深さが出てきますが、研究に充てられる時間は限られているため、どこかで諦める部分が必要になります。ビジネススクールは研究者の養成を目的としていません。背伸びした高度な研究よりも、自身のテーマに取り組む中で何かを得られれば良いと思います。

— これから修了研究に取り組む学生に向けて一言お願いします。

我々の日常生活は、何も問題がないように移ろいゆくものです。そこに問題を発見するのは大変なことです。自身の問題意識を持ち、誰かの役に立つテーマを見つけて取り組むこと。それは、ビジネスの本質かもしれません。

取材記事 / 14期生 中島弘島、奥積理香、立花和将